

劇場 バリアフリーに

来月4日 公演 「約束の水」塩尻実行委

劇団NPO現代座(東京都小金井市)の公演「約束の水」(7月4日・塩尻市レザンホール)の塩尻実行委員会(荒川正委員長)は、聴覚・視覚障害者のため、ボランティアの協力で「劇場のバリアフリー化」に挑む。

聴覚・視覚障害者助ける



会場アナウンスや俳優のせりふは、手話グループが通訳。同時に要約筆記NPO法人「長野サマライズセンター」が、パソコンを使って画面に映し、聞こえにくい人をサポートする。

優のせりふは、手話グループが通訳。同時に要約筆記NPO法人「長野サマライズセンター」が、パソコンを使って画面に映し、聞こえにくい人をサポートする。視覚障害者のために、実行委員の1人で、病気のために見えにくくなっている石曾根美佐子さん(49、同市大門7区)の意見を参考にして対策を。パンフレットは「点字カンナの会」が点訳して受付に。塩尻朗読ボランティアグループ(朗ボラ)は映写室から、俳優の表情や動き、舞台の変化を副音声システム装置がある座席(5席)にライブで伝え、利用者はイヤホンで「観劇」する。

同実行委は、中信地区の最終公演となるため「大町市(2日)と安曇野市(3日)のチケットでも入場可」としている。午後7時開演。前売り大人2500円、学生1000円。当日は大人2800円、学生1100円。問い合わせは、中野さん ☎090・3137・6511 (谷田敦子)

塩尻総合文化センターでの実行委。「遠慮なく、サポートを求めてください」と話す委員たち(17日)